

学校だより

冬休み号



三中HP

アクセス
QRコード

それゆけ三中

令和4年12月23日

足利市立第三中学校

生徒数：212名

発行者：高木秀和



●職員玄関脇に、技能員の先生が作った門松を飾りました。PTA会長さんの知り合いから頂いた竹を使っています。門松を見ると、この一年をしっかりと締めくくり、新たな気持ちで来る年を迎えようと、その凛とした青さに気持ちが引き締まります。また、校長室前には、先生と教頭先生が部活動掲示板を設置しました。部活動の連絡にとっても便利です。炭焼きの竹で作ったペン立てと一輪挿しも添えられ、温かみを感じます。



●12/2から一週間、人権週間として、人権教育担当、先生の企画で、詩人の谷川俊太郎さんがわかりやすくまとめた世界人権宣言等を活用し、各クラスで「人権週間」や「世界人権宣言」について学習し、そのまとめとして人権集会を開きました。日々の冷え込みは厳しくなりますが、皆さんの人権に対する思いに心は温まります。



人権週間 12月2日(金)～9日(金) 人権作文発表



(1-3)

「普通とは何だ」

人権学習1-1

LGBTQに関する性差別の実態を知り、そこから学んだこと、感じたことを、スカートをはきたいAさん(男性)、自分のことを「ぼく」と呼ぶ女性の友だちのエピソードと重ね、「普通と違うからおかしい」という考え方に警鐘を鳴らす内容です。「人の個性を尊重できる」世の中を願う作文です。



(2-1)

「言葉の暴力」

インターネットのSNS上での誹謗中傷について、誹謗と中傷、それぞれの語義から、現代社会が抱える無責任な言葉による暴力の実態に切り込み、自分が小学生の頃に体験した言葉の暴力とその影響力を訴え、人のもろさ、繊細さを認識した上で、一人で悲しむ人がいなくなる世の中を願う作文です。



(3-1)

「理解し合う大切さ」

サッカーのチームメイトには発作を抱えている人と耳がよく聞こえない人がおり、その仲間と、いかにコミュニケーションをとっていくかという体験談が柱で、発作が起きたときの対処を自分たちで学んだり、指文字を習って使うことで、知ることからステップアップ、理解の真の意味を語る作文です。

よい子の作品展

12/6(火)・わいわいディスカッション 12/19(月)



特別支援学級ではこれまでの制作してきた数々の作品を、よい子の作品展に出品しました。総合文化祭オープニングの学校紹介、絵画、粘土フィギュア、折り紙作品、フラワーアート等とても凝っていて充実した内容でした。また、3年ぶりに本校を会場として近隣の小中学生、保護者が集う「わいわいディスカッション」を実施しました。少林寺拳法の形をベースにした体操やじゃんけんゲームで交流をした後、保護者様は地域ごとのグループでのディスカッションを行いました。地域での交流ができたことを嬉しく思います。



★(別の話)この冬、特別支援学級の皆さんが作った

アップルパイは日々の活動の充実度を物語っていました。

まちの先生

11/25(金) ゲームソフトの会社、コーエー様から講師を迎え、



2年生を対象にキャリア教育の一つとして「まちの先生」という授業を行いました。ゲームクリエイターの仕事について、講師さんの経験をベースしたお話は普段では聞くことのできないもので、「仕事」について、新たな視点でとらえるきっかけとなれば幸いです。



中学生ボランティア さくらギネス・こどもガイド 11/27(日)



夏祭り、小学生学習会、尊氏マラソン等、これまでも中学生ボランティアで多くの生徒が地域に貢献してきました。今回は、小学生が記録に挑戦する桜ギネス、そして、織姫山を訪れた観光客をガイドする子どもガイドでのボランティア活動を行いました。ボランティアとしての皆さんの活躍に、これまでも各機関の担当者からお褒めの言葉をいただいています。また、人々を支援する以上に、皆さん自身の心と体の成長にとっての大きな栄養になっていると思います。



学校公開 11/28(月)~30(水)・授業参観、学年部会11/30(水)

学校公開では、普段の生徒の様子を観ていただきました。民生委員さんからは、生徒の学習態度や礼儀正しい振る舞いに、「三中はいいね」というお言葉をいただきました。今後も、地域に開かれた学校づくりをしていきたいと思ひます。



薬物乱用防止教室(学校保健委員会) 12/14(水)



足利警察署の 様にお話をいただきました。先生と保健委員さんの運営で、図書室からリモートで講義を発信しました。先生は、本格的な手品や腹話術等も交えながら、薬物乱用防止をはじめ、日常生活に潜む様々な犯罪について、そこからいかに自分自身を守るべきか、具体例をあげて教えてくださいました。

第2回 避難訓練 12/2(金)



今回は3年ぶりに足利市消防署員の方々にご来校いただき、皆さんの訓練への取り組みを評価、指導をいただきました。結果は、黙々と迅速に避難をする態度に高評価をいただきました。また、訓練終了後には安全委員さんが昇降口へ走って行って上履きの泥落とし場を設置しました。ありがとうございました。



終業式生徒代表の言葉

第2学期 終業式生徒代表の言葉 皆、堂々と立派な発表でした【発表内容の要約：校長室よりリモート】

1年3組 ①体育祭、長縄のリーダーとして声出しをがんばり、やがてクラス皆の声も出てきた。②体操では、新人戦で1年生の部準優勝、弱い気持ち打ち勝った成果を実感。③自分に合った勉強法を見つけていきたい。

2年2組 ①行事では呼びかけなど声かけを習慣化して改善したい。②自主学習で弱点克服に努めたい。③硬式野球では、夏の全国予選に向け、トレーニング、悔いの残らないように励みたい。④整理整頓を心がけたい。

3年2組 ①テスト勉強を頑張った。特に苦手だった数学、得意教科はポイントを理解した。②合唱コンクールでは声を出してみんなをリードし、音程を取る練習に励んだ。3学期、勉強、掃除、委員会活動頑張りたい。



12/14(水)学校集会の講話より【要約】「友だち幻想 人と人の〈つながり〉を考える」(著者 菅野仁、筑摩書房)を読んだ話

「自分は自分、人は人」 本当は幸せになるための「友だち」や「親しさ」のはずなのに、その存在が逆に自分を息苦しくしたり、相手も息苦しくなっていたりするような、妙な関係が生まれてしまうことがあり、これを、「同調圧力」と呼ぶそうです。菅野先生が大学のゼミでこの「同調圧力」という言葉を使った時に、一人の学生がいました。「先生、私の高校時代は、まさに同調圧力に悩まされた3年間でした。とにかく、いつも一緒に行動していきやいけない雰囲気があって、それがとても重荷だった。抜け出すにも抜け出せないし、距離を少しでもとろうとすると「なんか冷たい」とか「今までとちょっと違う」などと言われ、いついじめの対象になるかわからない。距離をとって孤立するのも怖い。そんな、毎日だったそうです。それが、大学に入ってかなりの程度開放されて、「人は人、自分は自分」という雰囲気が出てきたので、とても楽になったそうです。菅野先生は、同じ年代の若者が集う同質の集団である学校という場は、どうしても同調圧力が高まる傾向が強くなると分析しています。自分の好みとは関係なく、みんなと同じように、今流行の言葉を使ったり、物を持ったりしてしまう、本当に自分で選んでそうしているというよりも、一人だけ浮いてしまうのが怖い、ノリの悪い奴と思われるのが嫌だから、つい周りに合わせてしまっている場合が多いそうです。私たちの身の周りにはさまざまな種類の同調圧力が張り巡らされています。では、どうすればいいのか、本の中では数章に渡って述べられています。たまたま、階段を上がっていた時目に入った人権標語の一つに、この同調圧力を和らげることができそうなものを見つけました。「多種多様」「普通」はないよ あなたらしく これは、1年生、源田梓さんの作品です。日頃の生活で、「普通はこうだよ」「普通じゃないよね」など、「普通」が時には他者へ圧力をかけており、そして巡り巡って、「普通」が自分にとっても圧力になっているのかも知れません。「普通」の全てが悪いわけではなく、根拠もなく「普通」を使い、それに従わせようとするのが危険であり、同調圧力になっているということです。「自分は自分でいいんだ、人は人」、この感覚をまずは、鏡に映る自分をもつことから始めてはどうでしょうか。シンプルなことです。難しく考えず、「自分は自分」を一日一回、鏡を見たら言ってもよし、思ってもよし、心にとめてほしいと思ひます。そして、根拠もなく、「普通は」をという考え方をしないことです。こちらは、少し難しいかも知れませんが、心がけてください。



からっ風 舞い散る落ち葉 かき集め 校庭の海 葉文字は夢洲



1年 作